

中等1回生 尾野佑一郎先生に密着！

夏休みが明けた9月2日(金)、現在母校で音楽の非常勤講師を務める中等1回生尾野佑一郎先生の授業に密着しました。担当している4年生の「選択音楽」を受講している生徒の声を交えて、授業の様子をレポートします。



器楽アンサンブルの発表会

2日(金)の授業では、器楽のアンサンブルのまとめとして発表会が行われました。生徒がそれぞれバンドを組んで、夏休み前の授業や夏休み中に練習した成果が披露されました。



バンドを組むにあたり、尾野先生は生徒の興味や特性、主体性を重視して、楽器や楽曲の選定に制約を設けず自由に考えてもらえるような工夫をしていました。そのため、発表会では琴に興味を持った4人の生徒で『いつも何度でも -千と千尋の神隠しより-』を奏でいたり、管楽器で『ルパン三世のテーマ』を演奏しているバンド、ピアノとバイオリンが得意な生徒が組んで『情熱大陸』を披露するペアが見られるなど、バリエーション豊富な演奏が続き、発表している生徒も聴いている生徒も楽しそうに授業を受けていました。

また、尾野先生は生徒からのマイクを使いたいという急な要望にも快く対応しており、バンドの入れ替えの際も楽器の準備を積極的に手伝うなど、生徒に寄り添った授業運営をしている様子が見られました。

♪ 授業を受けている11回生の声 ♪

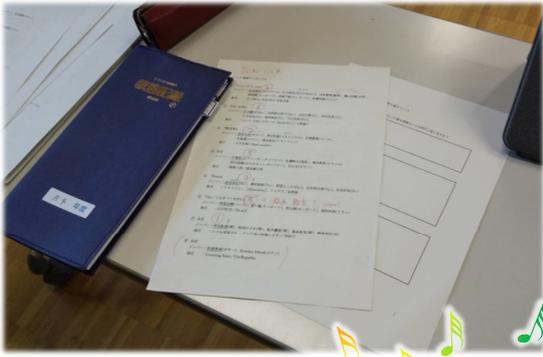
- ・ 生徒思いでとても優しく授業が楽しい
- ・ 生徒目線で楽器の選択なども自由に進めさせてもらえる点が良い
- ・ 尾野先生の非常に上手なピアノ演奏を生で聴くことができるので楽しい



母校での授業

中等教育学校の卒業生が教育実習以外で授業を担当するのは、尾野先生が母校にとって1人目です。尾野先生は大学院の修士課程に所属で自らの学びを深めるとともに、今年度の4月より非常勤講師として週に1度の「選択音楽」の授業を4時限分(4年生の週2単位の芸術選択の授業を2クラス分)担当されています。卒業してから7年は経っているものの、当時から在籍されている先生が多く残っており、学校のシステムもよく知っているため、母校での授業は非常にやりやすいとのことでした。

取材に訪れると、授業間には生徒と音楽以外の会話でも盛り上がり、尾野先生自身も母校の後輩



と関われる機会を楽しんでいる様子でした。

一方で、授業を担当するうえで欠かせない成績評価には苦難しているようでした。多くの生徒が意欲的に取り組んでくれており、各班の発表を聞いて感想を書く課題では想定以上によく考えて書かれたものが数多見られ、「全員に高評価を付けられれば」と嘆いていました（笑）。

■卒業生・先生だより

尾野 佑一郎さん [中等1回生]

みなさま、はじめまして。または、お久しぶりです。
1回生の尾野佑一郎です。

この度は、同窓会広報紙に特集していただきありがとうございます。自分のやっていることが取り上げられ、記事になることが初めてだったので、正直とても恥ずかしいです。今回、卒業生だよりも書いて欲しいとお声掛けいただき、改めて過去に発刊された『陽菊』を拝見すると、素晴らしい方々が執筆しており自分なんかを書いて良いものだろうかと思ったのですが、折角の機会なので恥晒しにならない程度に、現状報告でもしようと思います。

私は、3歳からピアノをやっていて、中等教育学校卒業後、浪人期間を経て、音楽大学に進学しました。進学した大学は志望していた所と違った為、入学当初は辛く、悔しい思いが大きかったのを今でも覚えています。しかし徐々に大学生活に慣れていき、音楽に没頭できる環境に身を置けていることが幸せだと感じ始めました。幸いなことに素敵な音楽仲間と出会い、助け合ったり高め合いながら大学生活を過ごせました。大学の4年間はあっという間で、まだまだ音楽のことを勉強したいと思う気持ちで溢れていたため、大学院に進学し現在に至ります。

大学院では、主にロシアの作曲家の作品を勉強しています。現在の情勢からロシアのことを嫌悪される方がおられるかもしれませんが、音楽作品は本当に素晴らしく、名曲が多く存在します。クラシック音楽をよく聴く方をご存知かと思いますが、S.ラフマニノフやA.スクリャービンと言った作曲家が私の研究対象です。作曲技法や演奏法に焦点を当て、多くの作品と向き合っているところです。大学院修了時には1時間のプログラムを考え演奏する試験があるので、今はその試験に向けて準備しています。

また今年度から、有難いことに母校で非常勤講師をさせていただくことになり、卒業してからも母校の発展に携われることを光栄に思っています。詳しい授業風景などは上の記事を見ていただければお分かりになると思いますが、4年生は本当に優秀な子が多く、楽しい授業を展開できています。音楽の楽しさを感じて欲しいので生徒の個性が活かされるような自由な授業をしています。秋学期には音楽祭があるので、良いものを作ろうと準備しているところです。

音楽の世界はとても厳しく、将来的にどの様になっているかは分かりませんが、周りに感謝しながら過



Yuichiro Ono

中等一回生。一昨年度、教育実習生として母校の教壇に立ち、2022年4月からは非常勤講師として選択音楽の授業を担当。得意のピアノを披露しつつ、楽しい授業を展開中。

ごしていきたいと思います。拙い文章でしたが、長々と読んでいただきありがとうございました。最後に、お忙しいところ授業見学に来られて記事を書いていただいた1回生小黒くん、ありがとうございました。

■卒業生だより

高橋 香帆さん [中等5回生]

秋とは名ばかりのいつまでも暑さを覚える毎日です。皆さまいかがお過ごしでしょうか。中等5回生の高橋香帆です。今回卒業生だよりに寄稿する機会をいただきましたので、中等での懐かしい日々を想いを寄せながら、少しばかり失礼いたします。

中等在学当時は、勉強や遊びよりも部活動に打ち込んでいた私ですが、大学進学後も飽きることなく、ハードと評判の体育会の部活動に所属しスタッフとして毎日グラウンドを走り回る生活を送っております。総勢100名規模の組織のなかで自分の役割を全うし、目標達成のために十分な貢献を行うということは、なかなか容易なことではありません。必要最低限の業務をするだけなら私である必要はないとの姿勢で取り組んでおりますが、かといって前例がないことに挑戦することはかなりの度胸が必要です。まだ学生の身分での悩みに過ぎませんが、社会に出るとこれとは比べ物にならない程の重責や葛藤と直面するのではないかと、今から不安を覚えるばかりです。ですが、附属で過ごした十数年間、特に中等での六年間は、その葛藤を跳ねのけられるだけの意味あるものだったと、大学生活・部活動の集大成が近づく今、改めて感じております。

附属では「自分で正解をつくる」ことを繰り返し経験させていただきました。あらかじめ決められた正解を追い続けるのではなく、正解がないような問いについて考え続けることで、枠を外れた思考をも可能にしていく力を培う訓練。正しい答えを手早く得ることを良しとしていた当時の私には、とても大変なトレーニングでしたが、今ではあの経験が自分の考え方や感じ方を大きく変えてくれたのだと実感しています。

一般的に大学生活は自由だといわれるように、高校を卒業した後は講義、サークル、アルバイト、就職先、何を選ぶのも自由であり、全て自分の判断・価値観に基づく選択の連続でした。何を選ぶべきだったのか、自分が選んだものは正解だったのかと不安になる瞬間は多々ありますが、それを乗り越え、中等での学びを活かし自分が選択したものを自分の力で正解にできる人間になれるよう、これからも精進していく所存です。

同じ時を共有し切磋琢磨してきた5回生の皆さまも、これまでいくつもの選択と決断を経て今の道を歩まれていることと思います。いつか、懐かしい思い出話に花を咲かせながら、今に至った日々を、そしてこれから拓がる未来について、語り合える日を心から楽しみにしております。

最後になりましたが、皆さまの今後益々のご活躍とご健勝をお祈り申し上げます。拙い文章にお付き合いくださりありがとうございました。



Kaho Takahashi

中等5回生。コーラス部に所属し、後期は部長を務めた。教育学部に進学し、ラクロス部のマネージャーとして活躍中。現在大学4年生、来年4月に就職予定。

お問い合わせフォーム

■ 同窓会の活動に関して



<https://forms.gle/JyN9kAfL5IEN4boi7>

■ 広報紙に関して



<https://forms.gle/RyVcpmkeqy4ALDy5>

■先生・卒業生だより

佐々木 ひかる 先生

皆さんこんにちは。神戸大学発達科学部附属住吉小学校・中学校卒業60回生の佐々木ひかるです。現在は、音楽科教諭、コーラス部顧問として、本校に帰ってきています。

中学生の頃はコーラス部に所属していました。中学3年生の時に、初めてNHK全国学校音楽コンクールで全国大会に出場し、東京NHKホールでアンジェラ・アキ作詞作曲「手紙～拝啓十五の君へ～」を歌いました。全国に進むまでは、楽しいことばかりではなく辛いこと、しんどいこと、苦しいこともたくさんありましたが、全てが報われたと感ずることが出来るくらい、私の人生において貴重な経験でした。心が震え、感動し、目には見えない力が音楽にはあると確信できた瞬間でした。そして、舞台に立ちながら「私はこの先も一生歌い続けるんだろうなあ」と思ったことを覚えています。当時は高校がなかったので、高校受験をしなければならなかったのですが、中3の秋まで部活ができたことは自分の自信に繋がりました。

高校では迷いなく芸術の道に進みたいと思い、声楽・ダンス・クラシックバレエ・芝居・日本舞踊・狂言・演劇論などが学べる高校に入学し、厳しい3年間を過ごしました。勉強との両立に大変ではありましたが、自分の好きなことに寝る間も惜しんでどっぷりつかることができた学生時代は今の私を支えてくれています。

そして今は神大附属を卒業して10年以上経ちますが、歌を生徒に教えるだけでなく、継続して自分自身が歌を学び続けることが出来ていることに自分でも驚いています。母校に帰ってきて、私にできることは何かあるのかと考えることもありましたが、自分の今までの経験をありのまま語り、感じたこと考えたことを共有し、生徒と一緒に悩み笑いながら歩いていくことならできるのかなと最近感じているところです。

現役生にとって卒業生の存在はとても大きいです。ぜひ、また神大附属に帰ってきていろいろなお話を聴かせてください。中学校・高校時代の思い出話、大学の話、社会人になってからの話、本当に貴重です。コロナ禍で大変な時代ではありますが、今後の皆さんのご健康とご活躍を心からお祈りいたします。



Hikaru Sasaki

2017年4月に本校に着任。自身も附属住吉小、中学校出身であり、音楽の授業やコーラス部の指導などを通して、同じ校舎で学ぶ後輩に「附属の文化」を継承中。

学校NEWS 短信

Kobe プロジェクトの発表会が開催される

7月5日(火)、6年生による課題研究の口頭発表会が開催され、代表者8名は7月15日(金)に行われた優秀発表会で研究成果をプレゼンテーションしました。「ナスに含まれるアントシアニン—アントシアニンの含有量が一番多いナスは何か—」、「累乗数とその逆数の無限和について」などのテーマの発表があり、当日はZoom Webinarでも中継されました。

中等生の活躍、続々！

部活動をはじめとする課外活動にて、中等生が各種大会、コンクール等で続々と好成績を残しています。

第71回近畿中学校総合体育大会のテニス競技では、3年生(12回生)がシングルスで優勝しました。また、PDA全国中学校・高校即興型英語ディベート合宿・大会2022では、前期、後期ともに優勝に輝き、他の賞にも多数選出されました。

上記のものを含め、中等生の活躍を次ページにまとめましたので、ご覧ください。

中等生の活躍!!

(一部抜粋)
2022年9月 ver.

■ FIT※

Asian Students Exchange Program 2021 Online	The Honorable Mention (優良賞)
PDA 全国中学校・高校即興型英語ディベート合宿・大会 2022 (課外活動の部・一般)	優勝、ベストディベーター、ベスト POI 賞
(中学生の部)	優勝、ベストディベーター、ベスト POI 賞
野球データ分析競技会	ファイナリスト
全国中学生英語ディベート大会	3位、ベストディベーター賞

※ Future Inovator Training : SSH 事業の 1 つで、授業以外の場面で主体性や国際性等を高めていくプログラム。
フィールドワーク、講演会、コンテスト・コンクール等があります。

■ 13 回生 SSCP (世界遺産×SDGs チャレンジプロジェクト)

世界遺産×SDGs チャレンジ 小論文部門 中学生の部 優秀賞

■ 生物科

生物学オリンピック本選 敢闘賞

■ 美術科

「化学の日」缶バッチコンテスト 中学生特別賞、コンセプト特別賞

■ 英語科

神戸日米協会高校生英語暗唱大会 優勝 (神戸日米協会会長賞)

■ ESS 部

Route H English Debate Tournament 2022 ベストリプライスピーカー 4位、6位
関西高校生英語ディベート大会 兼 全国高校生英語ディベート大会 関西ブロック 優勝 ほか

■ コーラス部

NHK 全国合唱コンクール兵庫県大会 中学の部 金賞
関西合唱コンクール 中学校部門・同声合唱の部 金賞
関西合唱コンクール 高等学校部門・A グループ 金賞 ほか

■ テニス部

近畿中学校総合体育大会 テニス競技 シングルス優勝
神戸市中学校総合体育大会 テニスの部 女子団体優勝 ほか

■ 陸上競技部

神戸市民体育大会 兼 神戸市陸上競技選手権大会 中学男子 400m 第1位

■ 将棋

全国高等学校将棋竜王戦 兵庫県大会 個人戦女子 優勝
兵庫県高校将棋選手権大会 個人戦女子 第2位

～同窓会からのお知らせ～

■ バックナンバーを進路資料室に設置：学校 HP での掲載に続き、進路指導部の大八木先生にご協力のもと、『陽菊 -ひなぎく-』のバックナンバーを綴じたファイルを進路資料室に設置しました。学校を訪れる際は、ぜひ進路資料室にお立ち寄りください。

また、今回の設置を受けて、本広報紙が在校生にも閲覧してもらいやすくなりました。『陽菊 -ひなぎく-』が卒業生と母校を繋ぐ架け橋になるとともに、在校生に卒業生のことを深く知ってもらえる媒体になればと考えています。今後も卒業生の皆さんの変わらぬご理解を賜り、寄稿などを通してご協力頂けると幸いです。



■ 寄付のお願い：3月31日発行『陽菊 -ひなぎく-』第4号でも紹介しましたが、現在母校では旧給食室の学習スペースへの改装工事等に関わる寄付を募集しています。寄付は以下に QR コード、URL を掲載している神戸大学附属学校部の HP にて受け付けています。在校生がより充実した探求活動、課外活動等を行うことができるよう、卒業生の皆さんからのご厚意、ご協力をお願いします。

金融機関での払込か、インターネットを介して、1口5,000円より受け付け中。

卒業生の皆さんご協力お願いします！！



附属学校部 HP：<http://www.schools.kobe-u.ac.jp/donations.html>

■ 附属学校園全体の同窓会設立に向けて：神戸大学の附属学校園全体の同窓会設立に向け、現在明石、住吉の同窓会の方々と準備を進めております。中等9回生が卒業する2023年3月の発足を目指して、同窓会組織に関わる議論をさらに深めていきます。今後報告すべき事項は学年幹事を介して共有しますので、ご認識をお願いします。

■ 本広報紙に関するお問い合わせ：「あの先生/先輩の話を聴きたい」、「こんなトピックを取り上げて欲しい」などの要望や、本号を読んだ感想をお問い合わせフォーム(p.3記載)にて受け付けています。どしどしご投稿ください。

【編集後記】

編集後記の順番がまた回ってきたことで、日々の目まぐるしさに驚いています。

こんにちは、一回生の太濱です。中高生の教育に携わる仕事をしつつ、こちらの広報紙にも微力ながら携わっていると、分かりやすい言葉で自分の考えを伝える力の大切さに気づかされます。というのも、記事を読むにつけ、やはり附属の皆様は日本語を使うのがとても上手だと感じるからです。繰り返されるディベートや、山と積まれるレポートを前に頭を悩ませる附属での日々は、思考力だけでなく表現力も育むのだと思います。この武器をオールにして、私も社会の荒波を乗り越えていきたいですね。

皆様も良き日々をお過ごしくださいませ。(1回生太濱)

(次号は12月31日発行予定です。)